

国分寺市委託事業

平成 30 年度 国分寺市相談支援スキルアップ研修会 ネットワーク研修 I  
「地域移行支援 in 国分寺 ～私たちにできる具体的行動～」  
研修実施報告書

日 時	平成 30 年 5 月 16 日 (水)	場 所	cocobunji プラザ リオンホール A
	13:30~16:30	主 催	国分寺市障害者基幹相談支援センター

参加者：33 名〈参加者内訳〉

精神科病院	4 名	根岸病院・やさか記念病院・高月病院
相談支援事業者	9 名	地域活動支援センター虹・地域活動支援センターつばさ 地域生活支援センタープラッツ
地域移行促進事業者	2 名	はらからの家福祉会・多摩在宅支援センター円
障害福祉サービス事業者	1 名	グループホーム桃
訪問看護ステーション	1 名	そよかぜ訪問看護ステーション
地域包括支援センター	7 名	国分寺地域包括支援センター こいがくぼ・もとまち・ひかり・ひよし・なみき
行政	9 名	多摩立川保健所・国分寺市生活福祉課・国分寺市障害福祉課
参加者合計	33 名	

(他、事務局 5 名)

1. 講演 「精神障害の地域移行支援に係る東京都の取り組みの変遷について」 (45 分間)

講師：君島 淳子氏 東京都立多摩総合精神保健福祉センター  
広報援助課 課長代理 地域体制整備担当

東京都の地域移行に係る取り組みの変遷について、平成 16~17 年度の精神障害者退院促進モデル事業に始まり、平成 18~23 年度の精神障害者退院促進支援事業、平成 24 年度~現在に至る精神障害者地域移行体制整備支援事業に関する内容と経緯を、国の動向も交えてご講演いただいた。また、東京都の精神保健医療福祉の状況については、東京都障害者計画及び東京都障害福祉計画や、東京都精神保健医療実態調査に沿ってご講演いただき、これまでの取り組みにおける課題と今後の方向性が整理された。それに伴い平成 30 年度から精神障害者地域移行体制整備支援事業内容が変更となっている点についても、理解し共有する時間となった。

2. 国分寺市地域自立支援協議会精神保健福祉部会からの報告 (25 分間)

「地域移行促進について」 報告：伊澤 雄一 部会長

東京都の取り組みについての講演の後、国分寺市における、地域移行支援への取り組みについて共有するため、精神保健福祉部会からの報告を行った。平成 29 年度に事例検討を通して取り組まれた、地域移行(精神科病院からの退院)の「促進要因」と「阻害要因」を精査する過程で、関係機関の共同・連携や、理解ある不動産仲介業者等も含めた地域の支援資源の発掘、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた協議検討が必要であることが整理され、報告された。

3. 会場からの現状報告 (20 分間)

参加者より、地域移行支援における現状報告や、事業及び業務内容についてお話いただいた。多職種による連携体制や共同できる支援体制の構築のために、地域移行支援に関わる各機関の取り組みを理解し、顔の見える関係から信頼しあえる関係にネットワークを深化させることを目的としている。

- ① 精神科病院からの現状報告  
報告者 | 根岸病院: 佐々木氏 (ソーシャルワーカー)
- ② 精神科医療地域連携事業について報告  
報告者 | 高月病院: 大西氏 (ソーシャルワーカー)

- ③ 行政からの報告  
報告者 | 国分寺市障害福祉課: 石丸氏 (相談支援係 係長)
- ④ 地域包括支援センター 認知症地域支援推進員の取り組み  
報告者 | 地域包括支援センターもとまち: 高頭氏 (社会福祉士)
- ⑤ 高齢者見守り相談窓口について  
報告者 | 高齢者見守り相談窓口こいがくぼ: 上村氏 (社会福祉士)

#### 4. 好事例の報告 (25 分間)

報告: 尹 聖根氏 社会福祉法人はらからの家福社会

国分寺市精神保健福祉部会でも報告・検討された、地域移行支援における好事例の報告を行った。地域移行支援の困難さの克服に目を向けるのではなく、好事例から、支援の強みやポイントを再確認し、今後活かせるヒントや支援のアイデアを得て、前向きな支援の検討につなげることを目的とした。報告から、利用者や家族に寄り添う、あきらめない支援の実践を学び、前向きな気持ちでグループワークに臨むことにつながった。

#### 5. グループワーク (30 分間) 7~8 名×5 グループ

医療・福祉 (障害分野・高齢分野)・行政の各分野からの参加を得て、各グループの構成メンバーをバランスよく多分野多職種に振り分けることができた。意見交換を通して、それぞれの立場からの理解や解釈、支援の視点が違うことが共有でき、各関係機関の役割や強みを活かした、多職種連携 (縦割りではない横のつながり) の重要性を再確認できた。

グループワークでは、好事例や地域移行促進の報告等から印象に残ったことや学んだことを意見交換したうえで、「自分たちで取り組める具体的な行動」「こうしたい、連携の形」「あったら良いと思う支援」「あったら良いと思う資源」について出し合い、共有した。

#### 6. グループ発表及び総評 (20分間)

各グループからのグループワークの討議内容発表の後、講師からの総評をいただいた。利用者の思いに寄り添い、地域資源を活用して支援を考える上では、インフォーマル資源も含めた、地域のコミュニティ情報を関係者で共有できることが重要になる。ピア・サポーターの力も活かした支援や、医療・高齢・障害の分野を超えた包括的なかわりを、行政も含めて、支援者同士が相談しあえる関係性のなかで支援できれば、地域移行につながる、と考える意見が多かった。また、病院に出向いていく支援や、長期入院者が利用しやすいショートステイやトライ&エラーができる場の開拓の必要性、町内会を含めた地域とのつながりや理解ある不動産業者との関係性構築、等もあげられた。これに対して講師からは、これらの意見一つ一つを実現することが、国分寺市の、精神障害者に対応する地域包括ケアシステムの構築につながる、との総評があった。好事例の報告であった、継続した諦めない支援には、ピア・サポーターが果たした役割も大きく影響している。今後、ピア・サポーター養成への検討も重要になることも、総評としてあげられた。

#### 7. まとめ

地域移行支援をテーマとした研修会は、昨年度に引き続き 2 度目の開催である。今回は、今年度の地域自立支援協議会のテーマである、「顔の見える関係から信頼しあえる関係へ」を研修目的の一つに加え、協議会との連動を意識した研修の組み立てを行った。精神保健福祉部会で検討された「地域移行促進について」の活動報告は、部会での取り組みを研修会で周知し、抽出された課題について更に検討することで、地域に組み込みの輪を広げることを目的としている。分野を超えたネットワークは、研修会を通して以前より構築されつつある。今後はこれらのネットワークを活用し、実際の具体的な行動につなげる取り組みが重要になってくる。精神保健福祉部会との連動のもと、地域移行支援の促進を通して、精神障害者に対応する地域包括ケアシステムの構築を具体的に検討し、実施につなげていく動きを図っていく必要がある。

## アンケート集計 集計結果

参加者：33名 回答者：25名 (アンケート回収率：76%)



### 1. 本日の研修はいかがでしたか。

たいへん参考になった：19名(76%)      参考になった：6名(24%)  
普通：0名(0%)      あまり参考にならなかった：0名(0%)      その他：0名(0%)

### 2. 「地域移行支援」について理解をすることができましたか？

よく理解できた：10名(40%)      理解できた：15名(60%)  
普通：0名(0%)      あまり理解できなかった：0名(0%)      その他：0名(0%)

### 3. 今後、実際の業務で取り組めそうなことは見つかりましたか？

下記に掲載

### 4. その他今後の研修で取り上げて欲しい内容や研修会への要望等ご自由にお書きください。

下記に掲載。

### 5. 所属している団体について教えてください。(重複回答あり)

精神科病院：4名(16%)	相談支援事業者：3名(12%)
障害福祉サービス事業所：2名(8%)	地域包括支援センター：5名(20%)
行政職員：8名(32%)	訪問看護ステーション：1名(4%)
その他：1名(4%)	未回答：0名(0%)

## 自由記述欄 (抜粋・要約)

### 1. 本日の研修はいかがでしたか。

たいへん参考になった：19名(76%)      参考になった：6名(24%)

#### ▶他機関との情報共有が有益だった。

- ・他機関・多職種の方の取り組みや苦労がわかり、大変勉強になった。
- ・具体例を含め、このように共有する機会があるとネットワークも広がるのではと感じた。
- ・今後、障害の分野について深めていく必要があると痛感した。
- ・ピア・サポーターなど初めて聞く言葉だった。
- ・長期入院の方は病院以外の場で過ごす機会が必要だと思った。
- ・国・都のこれまでの経緯とこれから先の動向が分かりやすかった。
- ・本人の気持ちに寄り添うことの大切さを改めて実感した。

#### ▶グループワークの時間が有意義だった。

- ・グループワークで支援者の想いが知れて良かった。時間がもっとほしかった。

## 2. 「地域移行支援」について理解をすることができましたか？

よく理解できた：10名（40%） 理解できた：15名（60%）

### ▶地域移行支援について

- 根拠となる事業体系を学び、十年以上前からの組織的な取り組みであることが分かった。
- 移行支援の流れが理解できた。はらからの家の粘り強い取り組みに頭が下がった。
- 好事例では、本当に粘り続けて関わり、諦めないことが重要だということがよく分かった。
- 諦めない、信じきる、寄り添うなど、高齢での意思決定支援の際にとっても参考になった。
- 「地域移行」と「地域定着」の違いが分からなかった。
- 医療審査会、弁護士、強制退院など、知らない言葉がたくさん出てきた。
- 今後とも多職種の方との連携を深めていきたいと思う。
- GHSS、PL というキーワードは、高齢者支援でも施設利用や関係者との関わり方を考える参考になると思う。

## 3. 今後、実際の業務で取り組みそうなことは見つかりましたか？

- 事務所へ戻り研修し、職員の意識を高め、様々なケースを受け入れていきたい。
- センターで共有し具体的なことを話し合いたい。
- 地域の中でアウトリーチを行い、関わりの中で相談のルートを枝分かれさせて、それぞれの専門分野での支援があるということが強みかなと、とても参考になった。
- 支援者が諦めないことが大事だと思う。
- 昨年に引き続き、「顔の見える関係」が深められたことが良かった。
- 介護だから、障害だからという縦割りの意識をなくしていきたい。
- まずは顔の見える、腹の見える関係づくりを心がけていきたい。
- 相談があればまずは足を運び、丁寧な相談体制をつくること。
- 本人の自己決定支援のために相談員一人ではなく、LP や他機関と連携しながら丁寧に行っていきたい。
- 連携するイメージがひとつできた。
- 様々な事業所とつながりを広げることが、本人のメリットや強みになっていくことが分かった。
- ご本人・ご家族・支援者の意識改革が大切だと感じた。
- 好事例にあった、諦めないで支援を続けることを参考にしたい。

## 4. その他今後の研修で取り上げて欲しい内容や研修会への要望等ご自由にお書きください。

- 個別の事例検討会、事例を通じたディスカッション、意見交換の場
- ピア・サポーター活動について
- 地域・関係機関連携との関わりの好事例
- 本人中心の支援において家族にどう協力をお願いしていくのか。（家族責任の範囲はあるか）
- 介護と障害共同での情報共有・学びの場があると良い。
- 年1回と言わず、開催をお願いしたい。（グループワークの時間が多い方が良い）
- 地域移行支援の事例検討会・勉強会
- 独居・生活保護・精神疾患の方の居所の課題や継続支援の課題と方法について
- 障害と高齢分野でお互いに現場実習してみたい。
- 福祉以外の地域住民に現在の国分寺の福祉状況を伝える機会があると良い。
- 今後も交流できるような研修をお願いしたい。